

| 頁 | 該当箇所 | 修正内容 |
|--------|---|---|
| p. 10 | 凡例「年表の見方」欄の「横浜に『慈仁堂』設立」の項目 | 「慈仁堂」を「仁慈堂」と修正。 |
| | 幼きイエス会（サンモール修道会）の資料および小河織衣『マザー・マチルドの生涯』参照より仁慈堂が正しい（同会でも確認。生江孝之の著書等の誤記の影響がある）。 | |
| p. 150 | 1897年の「キングスレー館設立」の項目 | 解説欄に「幼稚園・小僧夜学校・市民夜学校（英語教授）…」とあるのを「…幼稚園・市民夜学校（英語教授）…」と修正。 |
| | 片山潜『自伝』および「米国だより」に、小僧夜学校は日本橋の有志の設立で、片山はそこでも教えていたと記されているので、キングスレー館の事業と関連するが、キングスレー館の事業そのものとは分けた方がよいと考えられる。 | |
| p. 164 | 8月15日の「友の会が引き上げ病弱孤児の支援」の項目 表記の訂正 | 「引き上げ」を「引き揚げ」と修正。 |
| P. 456 | 「日本学生野球協会設立」の記事 元朝日新聞記者神野武美氏のご指摘により誤りが判明したため。 | 解説文中の「全国中学校野球連盟」を「全国中等学校野球連盟」に修正。 |
| P. 472 | 1994(平成6)年に掲載されている「日本身体障害者野球連盟結成」の記事 同連盟HP記載の「沿革」により。 | 1993(平成5)年1月結成の誤り |
| P. 485 | 1872年2月「共立女学校開設」の記事 文部省(1972)『学制百年史』第1篇「明治初期の女子教育」の記述により。 | 「共立」とあるのは「官立」の誤り |
| | 1875(明治8)年11月29日「森林女紅場開設」の記事 初版時点での入力ミス。 | 「森林」とあるのは全て「森村」の誤り |
| P. 488 | 『日本新婦人』創刊の記事 | 1886年9月25日とあるのを「1888年9月25日」と訂正。 |
| | 国文学研究資料館「明治期出版広告データベース」により、同誌創刊は1888年9月25日と判明したため。 | |
| P. 490 | 「アメリカのデンバーで開かれた『万国婦人教育大会』に津田梅子・渡辺筆子らが出席」の記事 | 「万国婦人教育大会」とあるのを「万国婦人倶楽部(連合)大会」と修正。また、解説部分に「渡辺筆子はその後、日本の知的障害児教育の開拓者として知られる石井亮一と結婚し、石井が興した「滝乃川学園」の運営に携わり、石井の死後園長を引き継いだ」との文言を加筆。 |
| | 清水孝子(2006)「近代化の歪みに挑んだ明治の女性たち」(『Kyushu communication studies2006』)や津田塾大学ホームページの記載等により元の記述の誤りが確認され、併せて、渡辺筆子が石井筆子であることが判明したため。 | |
| P. 491 | 「平民社の女性たちが治安警察法第5条改正運動に取り組む」の記事 | 説明文中「政談演説会への参加は認められた」とあるのを「衆議院での可決と貴族院での否決が繰り返され、22年に至って政談演説会への参加や発起人となることは認められた」と訂正。 |
| | 元の説明文だと平民社の女性たちによる運動の直後に改正されたように受け取られるのと、政談演説会への参加のみでなく発起人となることも許可された点が洩れていたため。 | |
| P. 492 | 「閨秀文学会結成」の記事 | タイトルを「閨秀文学会開設」と改めるとともに、解説部分を「女性文学者育成のために、成美英語女学校教師だった生田長江が校内に開いた文芸教室：講師には、生田のほか与謝野晶子・馬場孤蝶・森田草平らが就き、生徒には平塚らいてう・山川菊栄らがいたが、僅か4カ月足らずで閉鎖となる」と修正。 |
| | 逸見久美(2007)『新版評伝与謝野寛晶子明治篇』の記述により、上記解説のような事情が明らかとなったため。 | |

| 頁 | 該当箇所 | 修正内容 |
|---------|---|---|
| P. 493 | 「オランダのハーグで『婦人国際平和自由連盟』結成」の記事 | 記事のタイトルの「婦人国際平和自由連盟結成」を「恒久平和のための第1回国際婦人会議開催」と修正。解説の「ジェーン=アダムズ会長」を「ジェーン=アダムズ議長」と修正し、そのあとに「19年5月12日に『婦人国際平和自由連盟』結成(略称「WILPF」)」の文言を加筆。 |
| | H. ジョセフソン(小林勇訳)『絶対平和の生涯ーアメリカ最初の女性国会議員ジャネット・ランキン』、大蔵雄之助『一票の反対ージャネット・ランキンの生涯』、ニュージーランド学会編『ニュージーランド百科事典』、婦人国際平和自由連盟日本支部HP、等の記述によると、第1次大戦中の1915年にハーグで上記会議が持たれたことと、(名称変更を含めて)WILPFの結成が19年5月12日であることは間違いないことのように思われるが、その間の事情が必ずしも明確ではない。『ニュージーランド百科事典』では15年の会議の際に「国際恒久平和委員会」が結成され、その組織が19年にWILPFと改称したことになっているが、この点については、組織の名称を含めて確認が必要。 | |
| P. 500 | 1940年9月「婦人参政権獲得期成同盟解散」とある記事 | 婦人参政権獲得期成同盟(会)を「婦選獲得同盟」と修正。 |
| | 婦人参政権獲得期成同盟(会)は1925年に「婦選獲得同盟」と改称されていたので。 | |
| P. 511 | 「ILO総会で『家庭的責任を有する労働者条約』採択」とある記事 | 「家庭的責任を有する労働者条約」を「家庭的責任をもつ女性の雇用に関する勧告」と修正。解説部分は「123号勧告：育児休暇の制定も含む：81年6月に条約化」と修正。 |
| | 「家庭的責任を有する労働者条約」は1981年に採択された条約で、解説部分もその条約に関する説明であるため。 | |
| P. 512 | 「熊本大学・九州大学・富山大学が女子の入学を制限」の記事 | 「熊本大学・九州大学・富山大学等の薬学部で女子学生の入学を制限する動きが表面化」と修正。また解説文も「同窓生の反対により撤回される」と修正。 |
| | 当初の表現では3大学の全学部で制限がおこなわれたようになっているが、制限が検討されたのは薬学部のみで、3大学以外でも検討がおこなわれたこと。また、各大学とも同窓生の反対によって当初の方針が撤回され、実際には制限は実施されなかったことが判明したため。 | |
| P. 532 | 1984年12月8日の「武器はいらない……母親集会開催」の記事 | この集会は1980年に、第1回集会が「武器はいらない12・8平和を守る母親集会」の名称でおこなわれているので、1980年に移動。 |
| | この集会は日本母親大会の取り組みの一環としておこなわれており、同大会HPの年表を確認したところ上記事実が判明した。 | |
| P. 631 | 「『イギリス支配下の奴隷制度の緩和と斬新的廃止のための協会』設立」の記事 | 協会の名称にある「斬新」を「漸進」とするとともに、年月日を1823年1月31日と修正。 |
| | 藤川沙海(2017)「18世紀末イギリス奴隷貿易廃止の正当化」(大阪大学『パブリック・ヒストリー』)等の記述により。 | |
| P. 873 | 1844(弘化1)年8月15日「イギリス・マンチェスターでロッチデール公正開拓者組合結成」の記事 | 記事中「マンチェスター」とあるのを「ランカシャー」に。また、同頁のコラム1～2行目の「ヨークシャー」も「ランカシャー」に。 |
| | ロッチデールはマンチェスター近くの町ではあるものの地域的にはランカシャーに含まれており、ヨークシャーは東隣の州で、「ヨークシャーのロッチデール」との表現は誤りだったため。 | |
| P. 956 | 「はじまりのミッション122」の文中 | 「アルバニア」とあるのは「コソボ」の誤り。 |
| | 当該団体ホームページの記述により。 | |
| P. 1001 | 1947年「中村積善会設立」の記事 | 創立者名の「中村静雄」は「静尾」の誤り。 |
| | 同会ホームページの記述により。 | |